

第 33 回 日本受精着床学会総会・学術講演会が 2015 年 11 月 26 日 (木)、及び 27 日 (金) の 2 日間にわたって東京で開催されました。

当院からは院長、他培養士 3 名が参加し、培養士 2 名がポスター発表しました。

テーマ

『タイムラプスシステムによる胚発育動態の新しい評価法の取り組み』

『Day4、Day7 における胚盤胞移植の有用性』

『タイムラプスシステムによる胚発育動態の新しい評価法の取り組み』

タイムラプスモニタリングシステム (Primo vision) は、一定の間隔で撮影した写真を連続して記録するため胚の細胞分裂の様子を動画のように確認でき、それを解析することでより妊娠の可能性が高い胚を予測できるシステムです。初期胚や胚盤胞が複数ある場合、画像から得られる情報を利用し、どの胚が移植に適した良好胚なのかを見分けることができます。当院では、タイムラプスから得られた情報を独自の方法でスコア化することで移植胚の選別を行っています。従来の形態評価に加えタイムラプスシステムによる胚発育動態のスコアを評価することでより妊娠の可能性が高い胚を選別できることがわかりました。また、この評価法により妊娠後の流産率も大幅に減少しました。

『Day4、Day7 における胚盤胞移植の有用性』

当院の胚盤胞移植での第一選択は Day5,Day6 での良好胚盤胞移植ですが、タイムラプスモニタリングシステムで観察すると、発育速度が早く Day4 で胚盤胞に発育する胚や、発育速度が遅く Day7 で胚盤胞に発育する胚も観察されます。Day4,Day7 での胚盤胞移植後に妊娠、出産されている患者様もおり、Day4、Day7 の胚盤胞でも良好胚盤胞であれば十分妊娠する可能性があるという事がわかりました。

今回の学術講演会は、演題数が多く濃い内容の発表が多くみられました。内容も多岐にわたり充実した 2 日間となりました。新たな技術や知見も得ることができ、今後患者様の妊娠という形で還元していきたいと思えます。

培養士 金森 真希